

平成 30 年度仙台市若林区まちづくり活動助成事業
実績報告および質疑応答（質疑まとめ）

《報告の流れ》

1 団体 8 分で発表。1 団体ごとに評価委員による質疑をし、最後に評価委員長から総評を得る。

ねこメイク de まちあるき&ねこ灯籠づくりワークショップ
猫塚古墳ねこまつり実行委員会

- Q 今年開催 1 か月前になって会場の都合で日程が急きょ変更になったとあるが、どんな事情があったのか。
- A 調整ミス。会場の予約は取っていたが、実際に予約した日ではない日程で報告を受け、確認をしないまま、準備をしていた。
- Q 事業名でもある「ねこメイクでまちあるき」の根本が揺らいでいるのではと感じた。また広報不足だったとあるが、どのような広報を行ったのか。
- A チラシを 2500 部ポスティングし、ポスターを 50 部位貼ってもらった。問題だったのは、その他の広報関係で、雑誌や TV 取材は日程変更があったため、時間調整がつかなかった。ミヤギテレビの OH バンデスにも出演予定だったので、とても残念に思っている。
- 意見 事前告知を含めた広報全般に課題を感じる。当日の取材もお願いし、参加していない人達に知らせる手段の確保や、「インスタ映え」のような SNS を上手に活用し、来年の見込み客を獲得する工夫など、しっかりとした広報計画をたてる必要がある。皆さんに広く伝えていく方法を考えてほしい。
- Q 「今年、台風はこなかった」との報告であったが、昨年を踏まえて、雨対策としてどのようなことを行っていたか。
- A 紙芝居等の持ち物は、すべてラミネート加工をして、雨や風に対応できるよう準備をした。また、雨具もスタッフと参加者の分を全員分ではないが用意した他、昨年の経験から足元までかなり濡れることを想定し、タオルも必要になると感じ、準備をした。まち歩きなので、外を歩くときに必要なものという想定で対策を行った。
- Q まち歩きはどの位の時間を歩いたのか。
- A まち歩きの時間は 1 時間。昨年は、まわる箇所ももっと多く、長いコース設定をしていた。しかし今年は、参加者に高齢の方が多く、また逆にベビーカーを押す乳幼児連れの参加者もいたので、コースを変更した。
- 意見 事業の目的や展開として、郷土愛を育み、地域コミュニティを活性化させるとあり、そのために地域を知ってもらうことが重要だと記載している。この目標のために、ねこメイクでまち歩きをしたり、ワークショップを行ったりしているが、天候に左右されていると感じており、先ほど雨対策について確認をした。天候に大きく左右されない対策、例えば、文化センターを借りておいて、雨天だった場合にまち歩きはできないが、近隣の紹介を会場で行う等の工夫は必要だ。先ほどのベビーカーを押す参加者も 1 時間通してまち歩きするのが難しくても、会場で軽くお話を聞くことはできると思う。屋外の準備だけではなく、地域を知ってもらう工夫の一つとして、屋内の準備にも目を向けてみてはどうか。

- Q まち歩きの内容についてききたい。どのようなコンセプトで、どの位の話をして1時間の中で参加者に伝えられたのかを詳しく知りたい。
- A 猫塚古墳がある少林(わかばやし)神社から出発し、若林文化センターの脇を通り、養種園跡地や真山青果の句碑、七郷堀の分岐点のところを見てまわり、その要所、要所で説明を行った。例えば、養種園跡地(現在の若林区役所敷地内)を流れる七郷堀は昔、地域の方が「ざーざー川」と呼んで親しんでおり、川あそびをしたとの話があったので、それを紙芝居にして、実際に堀の前で紙芝居を見せながら、「昭和中期頃」までの様子を10分～15分説明した。また、真山青果の碑でも、同じく紙芝居を使って10分程度説明をした。紙芝居のないところは5分程度の説明だったが、文化センター(南小泉屋敷)での説明は、参加者の興味関心が高かったため、少し長めに20分位の説明をするなど、参加者の反応をみながら、江戸時代から昭和にかけての地域の移り変わりを伝える、まち歩きを行った。
- Q ねこメイクは、参加者全員が行ったのか。
- A メイクは参加者全員ではない。基本的には参加した子ども達はメイクをしたが、子どもの付添で参加した大人はメイクをはしていない。スタッフは、かなりしっかりとしたメイクをしていた。
- Q メイクをしなくてもまち歩きには参加できるとみてよいか。
- A メイクは希望者だが、ねこ耳は参加目印にもなるので、参加者全員につけてもらった。
- Q 児童館でワークショップを行ったとの報告だったが、参加した子ども達は、地域の子ども達ということでよろしいか。それとも児童クラブに所属している子どもだけの参加か。
- A 児童クラブの子ども達も参加しているが、地域からチラシを見て集まった子どももいる。広く地域に呼びかけて行ったものだ。

第3回心をつなぐ若林シーサイドマラソン

若林シーサイドマラソン実行委員会

- Q 事業計画説明会の時に、特定企業の協賛比率が高すぎるので、多様な資金の調達について検討するよう話があったと思うが、報告書を見る限りでは、さほど改善されているように見受けられない。多様な資金調達について、今後の展望はあるか。
- A 協賛企業については、今回1社増えて32,400円の協賛を頂いた。今回、多様な資金調達を行うため、さまざまな企業に足をはこびお願いをした。協力を依頼した企業は、若林区の企業に限らず、沿岸部でこれから事業を行う企業にもお願いをしたところ、今回の協賛につながった。少しずつ関連する企業の協力を得てはいるが、まだ特定企業に頼っている状況にはなっている。
- Q 対象経費外にはなっているが、プランニングやディレクション費の内訳が知りたい。
- A ラジオ3に50万円、みやぎ連携復興センターに20万円の内訳で、消費税や振込手数料がかかっている。
- Q 今回1,327名の参加との報告だが、この人数は募集人数1,200名に対して実際に走ることができる上限の人数なのか、単に応募してきた方全員の人数なのか。
- A システム上は1,200名でストップするようになっており、今回はメ切日の約1週間前に到達した。インターネットでは「受付終了」と表示がでていたが、それでも走りたいと希望される方達の問い合わせの電話を受けるようになった為、実行委員会で本来メ切日であった11月9日までに電話で申し出のあった方は受付することにした。なので、127名は電話対応で受付をした方となる。
- Q 収支決算書の支出をみると、人数が増えたことにより、記録計測やテントなど実費の部分は増えているが、保険や救護関係、無線機のレンタルなどの安全対策の部分の経費は増えていないことが気になった。計画以上に増えた人数を受け入れても、すべて賄えるのであれば問題はないが、経費の足りない部分のしわ寄せが安全対策の経費等が増えなかった原因であれば問題である。実際に人数が増えたことによりかさむ経費の補てんを誰が判断して動いているのか。
- A 基本的には実行委員会で判断している。今回の人数を増やす件も、実務は事務局で担っているが、委員長や会長に状況を報告し判断をしてもらった。また、マラソン競技についての専門的な判断が必要な部分は陸上競技協会にもお願いしている。コースも見てもらっているし、人数増加についても今回の人数であれば問題はないことも確認した。
- 意見 課題点として記載している受付の人数が足りなかった部分や、障害者の併走の部分など人数が増えることで生じるもの、ボランティアの人数確保、保険や救護などの安全面の人数に見合った対策について、今後も人数を増やしていくのであれば、再度見直してほしい。
- Q この事業は、ただマラソンをするというのではなく、復興の8年目の姿を見てもらいたいという趣旨があると思うが、ランナー以外の沿道での応援者に対してのこの事業に対する参加はどのような形であったのか。
- A 通常ではよく見かける沿道での応援は、このマラソン大会ではない。理由は、コース幅が狭いことと、設定したコースに入っていく道がないこと。コースの途中には陸上競技協会の審判団だけがいる状況になる。ランナーの応援をする方々は、コースの発着位置で待機している。周回するコースなので10kmだと折り返し地点が発着地点と一緒のため、2回

見ることができ、そこで応援や写真撮影をしている。また、グループで参加しているランナーから聞いた話になるが、コース幅が狭いこともあり、グループのメンバーとすれ違う時に「がんばれ」とランナー同士で声をかけ合ったようだ。

意見 もっとマラソンを走らない応援者が、ランナーと同様に被災地を見ることができる機会があると良いと思う。

Q 全国的には2割位が女性ランナーと聞くが、この大会ではどうか。

A 2割～3割が女性で、男性ランナーのほうが大半だった。

若林城下町・まち物語

杜の都まちなか倶楽部

- Q 当日参加させてもらった。朗読劇が難しい歴史や建築のことを解りやすくしており、事業の切り口がすばらしかった。お茶のおもてなしなど、随所にきめ細かさを感じる企画でもあった。幅広い年齢層の参加者がおり、若林区の歴史建造物等に関する関心度の高さを感じたが、今回人数を増やしたことで、参加を希望された方全員が参加できたのか。
- A 参加できなかった方はかなりいた。すぐに断るのではなく、キャンセルまちとしてお預かりした状態にし、また参加される方にも都合が悪くなった場合はすぐに連絡をして頂けるよう1件1件連絡をし、丁寧に対応をさせて頂いた。そのおかげで当日キャンセルが1件もなく、各回全員参加となった。当日までキャンセルまちをして頂いた方や、直接会場にまで来て待っていた方もいたので、本当は全員に参加してもらいたかったが、会場の広さに限度があり、お断りしたことは申し訳ない気持ちでいる。
- Q トイレが男女兼用だったので、男性側に衝立をするなど工夫があると良かった。
- A 準備の段階でもトイレを利用することは少なく、そこまでは気がつかなかったが、配慮できるように対応しなければと思う。
- Q 追加分に参加した。率直に500円の参加費は安いと感じた。素晴らしい庭を拝見したあと、専門家に建築物について解説を頂き、家に入ってから若林城下町の解説や朗読劇、お茶や菓子のおもてなしなど、かなり充実した内容に参加費が見合わず、戸惑いの方が大きかった。このような歴史ある建築物を維持管理するのは大変な苦労だと思うので、参加費を増やして、すべてこのイベントに利用するのではなく、日頃の掃除費用に充てるなどの工夫があっても良いと思うがいかがか。
- A そのとおりだと思う。初めての取り組みだったことや準備期間が短かったこともあり、事業全体の料金算出が甘かったと感じている。今思えば、当日カンパ箱のようなものを準備し、志のある方に出してもらい、それを針惣さんにお渡しできれば良かった。建物の維持にかなり費用がかさむと聞いていたので、そういう取り組みを今後は検討していきたい。

評価委員長から総評（コメント）

各団体の皆さま、ご報告ありがとうございました。私自身も参加させて頂いた事業もありますし、参加はできなかった事業もまわりの参加した方から、それぞれ素晴らしい事業だったと話を聞いておりました。

今回事業を行った3団体とも、若林区の地域資源を十分に活用している事業だと思いました。また、行政単独では行うことが難しい企画を、市民の力を発揮し取り組まれた事業で、この若林区区民協働まちづくり事業として助成できて良かったと感じております。

今回の助成で3回目になれる団体はおりませんので、次年度のまちづくり活動助成事業も継続して応募を検討して頂ければと思います。

また、今後の展開については、すでに検討している団体、まだこれからという団体もいらっしゃると思いますが、本日お話しさせて頂いた各評価委員の意見も参考にして頂き、さらなる事業の発展ができることを望みます。

今年度も当初の予定通りにはいかなかった部分がそれぞれの団体であると思います。そのなかで工夫を凝らし、実施に向けて取り組まれたと思いますが、今年度できなかった部分をさらに創意工夫をし、来年度で実現して頂ければと思います。